

屋島小学校だより No.41 (2007.12.3)

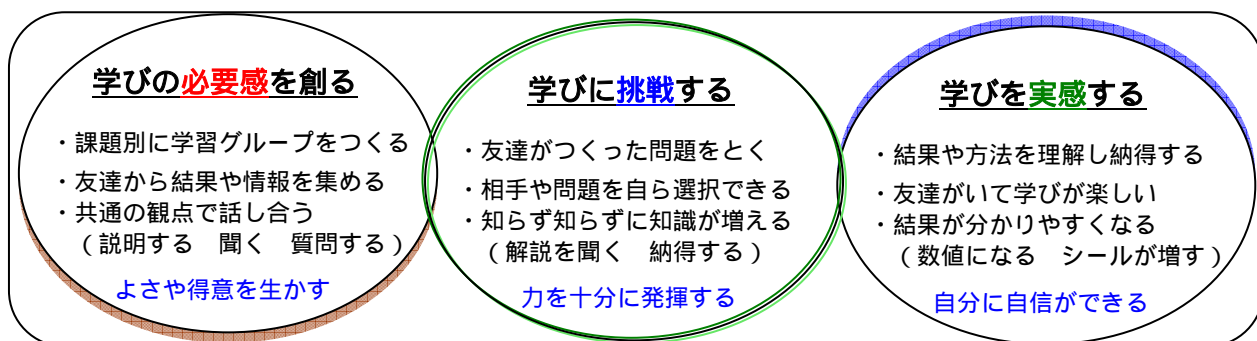
E-mail e-yasima@edu-tens.net TEL 841-1538 FAX 841-1539

URL http://www.edu-tens.net/syoHP/yasimaHP/

“第28回 四国理科教育研究大会”を終えて

いよいよ“師走”になりました。先月22日には、四国理科教育研究大会(香川大会)が本校で開かれました。中国・四国地区から多くの先生が集い、指導法について熱心な討議が行われました。この3か年の研究は“子どもを元気にする”取組でした。学校教育の全領域で、子どもが自分の力を十分に発揮して活動(教え合い 支え合う)をすることが中心になっています。

昔から、「聞いて覚えたものはすぐに忘れる」(短期記憶)が、「自ら体験して得た知識や技能は繰り返し使える」(長期記憶)とされています。理科学習では、観察や実験などの実体験を多く取り入れ、その結果を友達に説明する活動を行っています。これが“**友達と学び合う学習**”です。友達と学び合う学習を進めるにあたり、下のような視点で工夫をしてきました。



参会の先生からは、「子どもたちが意欲的に学んでいる」「学び合ったことをノートにたくさん記録している」「目が輝き、集中して取り組んでいる」などの意見が寄せられました。しかし、6月のアンケートでは、話すことに苦手意識をもつ子どもの実態が読み取れました。

調査項目(抜粋)	3年	4年	5年	6年
友達がいるので学校に来るのが楽しい	93%	93%	90%	95%
先生と一緒に勉強するとよくわかる	93	95	83	80
友達と協力して、学習や活動に取り組める	88	90	80	80
友達と学び合うと新しいことが分かる	90	95	83	80
友達と学び合うと考えが深まる	85	90	80	80
違う考えの友達の意見も気持ちよく聞ける	88	90	83	78
自分の考えをみんなの前で話せる	75	78	63	65

平成十九年六月実施アンケート
対象者 三年生～六年生

今回の実践を通して、子どもたちに学び合うことの**楽しさ**や、友達に説明したり、質問したりして学びを深めて**自信**につながればと願っているところです。授業参観したところでは、多くの子どもたちが活発に話し合っている(学びを楽しむ)様子が見受けられています。また、活動に集中して取り組むことで、内容の理解や定着に効果があったものと考えています。

“子どもたちが集中力を高め、**学び合うことで学習が深まります**”